



Zero, start, sea bass fishing book

<マインド編>

【ご注意ください！】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。

下記の点にご注意ください。

このレポートの著作権は斉藤真吾に属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部を

いかなる手段においても複製、転載、流用、転売等
することを禁じます。

このレポートの開封をもって下記に記載された
事項に同意したものとみなします。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部を
いかなる手段においても複製、転載、流用、転売等
することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った場合、その他の不法行為に
該当する行為を行った場合は、関係法規に基づき
損害賠償請求を行う等、民事、刑事を問わず
法的手段による解決を行う場合があります。

このレポートの情報は作成時点での著者の見解等です。
著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、

見解の変更等を行う権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、

万が一誤り、不正確な情報等が有りまして

著者及びパートナー等の業務提携者は一切の

責任を追わない事をご了承願います。

このレポートを利用することにより生じた

いかなる結果につきましても、著者及び

パートナー等の業務提携者は一切の責任を

追わない事をご了承願います。

【推奨環境】

このレポートに記載されているURL はクリックできます。

できない場合は最新のAdobeReader を下記のページより
ダウンロードしてください。（無料）

[http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep
2.html](http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html)

目次

- ・はじめに
- ・シーバスについて
- ・まずはホームフィールドを決める
- ・普通のマナー
- ・釣り人のマナー
- ・仲間をつくろう

- ・ルアーフィッシングの基本
- ・申し遅れました

はじめに

こんにちは、しんです。

このZero, start, sea bass fishing book

マインド編では、**あなたがこれから**

シーバスフィッシングを始めるにあたって

持っておくべき必要な知識と

大切な考え方について

お話をさせていただきます。

シーバスフィッシングを楽しんでいくのに
いちばん大切な内容になっています。

何度も読み返して完全に

あなたの脳にインストール

しておいて頂けるとうれしいです。

じゃ、さっそく。

シーバスについて

小さいものは別ですが、
まともなサイズのシーバスを
釣ろうと思ったら、
闇雲に出かけて闇雲にルアーを
キャストしても何も釣れません。

これで釣れる人はただ
運がいいだけです。

【では、どうすればいいのか？】

シーバスを釣ろうと言うのなら、

まずシーバスについて

良く知る必要があります。

シーバスフィッシングの中級者や
上級者たちは適当に気分で釣りを
しているわけではありません。

彼らにはシーバスの居場所や
どうすればルアーにシーバスが
食らいつくかが分かっているのです。

では、いきましょう。

シーバスとは、小魚、カニ、エビ、
イソメなどを好んで捕食する
海水性肉食魚です。

ちなみにイソメとは釣り餌に使われる

足が何本もあるミミズみたいな多毛類です。

ゴカイもそうですね。



シーバスという魚は適水温の幅が広く、

淡水にも対応できるため

オールシーズン狙えて、

ほとんどの場所にいる

狙いに行きやすいターゲットです。

かなり貪欲に餌を追いかけて回しますが

警戒心もたかく、非常に賢い魚です。

具体的に説明すると、

普通にただ餌を追いかける訳ではなく

暗い場所に隠れていて

通りかかるベイトに襲いかかるとか。

物陰に隠れて通りすがりを狙うとか。

深い場所にいて、はるか上の層を

通りかかるベイトに

下から襲いかかるとか。

強い流れを利用して遊泳力の
弱い魚の動きをある程度封じて
襲いかかったりします。

ベイトとは捕食対象となる
生物の総称の事です。

【実はシーバスは・・・、】

シーバスは本来そんなに泳ぎが
得意な魚ではありません。

スピードもそれほどではありません。

ただしパワーはありますが・・・。

そのため、**効率よく餌をとるために**

こういった賢い方法を使います。

つまり、人側から言わせれば、

これらの餌を取るための

補助的要素がある場所にやる気のある

シーバスがいると予想出来るわけです。

そして、

「シーバスは流れに付く」とも言われます。

なぜなら、シーバスという魚は

わりと酸素を必要とする魚なんです。

その証拠にストリンガーという

クリップにひもが付いた

水中で魚を長時間活かして

おくための道具で繋いでおくと、

余程の流れがないかぎり

10分も経つと瀕死の状態になります。

大きい魚は小さい魚にくらべて

遊泳力が大きいため、

楽に流れの中に定位できます。

そして、流れの中に定位していれば

止水域で泳ぎまわるよりも

楽に酸素を取り入れることが出来る。

そしてなおかつその流れを使って

小魚を捉えることができる。

流れの変化がある場所は

プランクトンが豊富で

小魚も集まりやすいですから。

シーバスは夜行性と言われていますが、

私は状況に合わせて

動いているだけだと思います。

割りと岸際にいますが、

人の気配や異変を感じると

すぐに逃げますね。

私の感じた状況から分析すると

こんな感じです。

さて、だいたいどんな魚か

分かって頂けたでしょうか？。

この**シーバスの特性を**

知っておくことが非常に大切です。

頭の片隅に置いておいてくださいね。

まずはホームフィールドを決める

シーバスフィッシングを始めるには

まず、**ホームフィールド**を

選ぶ必要があります。

ホームフィールドの決め方によっては

爆る事も可能な良い場所に

当たる事もあります。

あなたのホームになるので

コンスタントに釣れて上達出来る

フィールドを選ぶ事が大切です。

なんといっても通う事になりますから。

【ホームフィールドとは？】

初心者が選ぶべきホームの要素とは？

そもそも**フィールド**とは何なのか？

フィールドとは要するに

釣り場の事です。

ではホームフィールドとは？

ホームフィールドとはあなたの

シーバスフィッシングの

ルーツとなる、はじめの場所の事で

一番よく通う場所のことです。

ちなみに私のホームは

四日市の霞埠頭。

かなり広大で多くのポイントが

存在しますね。

四季折々のいろんな釣りが楽しめる、

素晴らしいフィールドです。

【ホームフィールドの要素】

ホームフィールドを決める時には
いくつか押さえないといけない
点があります。

まず、あなたの家から一番近くて
ある程度の水深がある場所。

そうですね～、
最低でも干潮時に1メートルほどの
水深が欲しいところです。

そしてなおかつ、潮の干満によって
水の入れ替わりがある場所を
選んでください。

なぜなら、時間帯によって
水が干上がるような場所だと
釣りに行けるタイミングが
限られてしまうからです。

そして、水の入れ替わりが
乏しい止水域では魚の活性が悪く、
ベイトの生息数や回遊も
少ないからです。

ベイトとは、捕食対象となる生物を
総称してそう呼びます。

私の家の近くにも干潮時に

干上がってしまうフィールドがあります。

いい場所なんですけど、タイドグラフを

確認せずに適当に出かけると

「水がない！」って事になるので

ホームには向きません。

私も程々に忙しいヤツです。

例えば仕事終わりや仕事始めに

「ちょっと釣りに」と言う場合でも

仕事の時間はほぼ決まっているので

潮のタイミングを基準に合わせられる

わけではないですね？

あなたも忙しいはず。

だとしたら、干上がる場所を

ホームにするといつでも釣りに

行けないので、釣りに行く頻度が

下がってしまいます。

これでは、せっかくのやる気も

時間とともに萎えてしまうので

オススメできません。

さらに、出来れば常時ベイトが

目視で確認出来るくらいの

場所がいいです。

確認できなくても上の条件を

満たしていれば、まずベイトは

居ますから、とりあえずは大丈夫です。

が、出来る限りいい場所を

選んだほうがいいので

探してみるのをオススメします。

ただ、あくまでも

優先事項は家から近いことです。

又は仕事場から近いとか。

頻繁に通うことになりますから。（笑）

ちなみに私の場合は家から

15分くらいで着きますね。



フィールドに恵まれて感謝です！

どのタイプのフィールドを選ぶか？

フィールドの種類に関しては
漁港、港湾部、河口、河川の
中から選んだ方が無難です。

なぜなら、サーフや磯、大河川は
装備品も多く**危険度も高くなる**ので

始めたばかりのあなたには
オススメできません。

装備品を揃えるのにお金も
かかりますしね。

と、いうわけで

河川に関しては大河川はやめて
おいたほうがいいです。

出来れば小河川か中河川ですね。

川幅は50メートル～150メートル

くらいが理想的です。

足場が良いところにしてください。

簡単なのは、

よくシーバスアングラーを見かける

フィールドを選ぶ方法です。

ただ、この方法は毎日のように

叩かれて、スレきったシーバスを

相手にするために、

しっかりと釣れる要素に合わせないと

シーバスに出会うのは難しいです。

腕を磨きたいなら、オススメですが。

以上の要素を考えてあなたの

ホームフィールドを選んでください。

複数のポイントがあり

迷って決められないとか、

今ひとつ決め手にかけるという場合は

当ブログの**お問い合わせ**から

ご質問頂ければ、

バシッと決めさせて頂きます。

という方法もオススメです。

普通のマナー



あなたはマナーについて

どうお考えでしょうか？

今回は普通のマナー。

釣り人のマナーがどうか

以前の話です。

こういった、いわゆるウザい話は

あまりしたくはありません。

ですが、とても大切な事です。

一人の責任ある“人”として、

「分かってら〜」な〜んて言わずに

今一度、しっかりと深く

考えてみてください。

あなた自身の事ですよ。

なぜなら、マナーは自分の人生を

豊かにするものでもあるからです。

クールにいきましょう。

【本来ならば言うまでもない事】

ただ、当たり前の事、

これが出来ない人が意外と多いものです。

気が付いているのか、いないのか

それは分かりません。

ですが、普通の人ならば

見ればわかるので、

分かっててやっているのでしょう。

例えば、

どう見ても、「そこはマズいよ」って
いう場所に車などを停める方が
たまにみえます。

普通、車を停める場所は
運転している段階で
見て判断しています。
でなければ通過するはずですから。

つり場にかぎらず車を止める
際には近隣住民の方々に迷惑と
ならないように節度ある行動を
お願いします。

「邪魔だからどかせ！」とか、

言われてもどうか怒らずに

「すいません！」と一言謝って

速やかに車を移動してあげてください。

もし、あなたが、

「別にいいじゃん」とか

「誰が停めたか分からないから大丈夫」

とかいう判断で

やっているのだとしたら、

それって**ヤバい事**だと

認識してください。

人の思いを無視する行為です。

当たり前ですよ？

自分がやられた時の事を

考えてください。

これを考えればそんな選択肢は
出てくるはずがないんです。

夜に釣りをする場合は
近くに住宅があるなどするとき、
絶対に騒いだりしないでください。

これも上記と同じく
言うまでもないですね。

【クールに行きましょう！】
犬の散歩などしている人に
遭遇したら「こんにちは！」
などと言あいさつを

交わすのもオススメです。

普通にカッコいいですね？

ゴミは絶対に持ち帰りましょう。

ジュースのペットボトルなど、
絶対につり場などに放置したり、
車の窓からポイ捨てしたり
しないでください。

とかなんとか偉そうな事を
言ってますが、実は私もまだ
若かりし頃にちょっとしたゴミを
釣り場に捨てていた事があります。

一方的に言うだけでは
フェアではないと
感じたので暴露します。

ですが、釣りを重ねるごとに
これはやっぱりダメだなと
思うようになり次第に持ち帰る
ようになっていきました。

そんな頃の話です。

私は以前、釣り場で
こんな光景を見たことがあります。

そこそこの長い堤防で

私は先端の方へ向かって
ゆっくりと歩いていました。

そう、今まさにタックルを
準備してポイントへと向かう
途中の出来事です。

正面から小さなビニール袋と
大量の釣り道具を持ってこちらに
歩いて来る方がいたのです。

ちょうど夕方で、
「これからいい時間なのに・・・、
きっと何か用事でもあるんだな」
って思ったのを覚えています。

すると、その時です。

私の5メートルくらい前で

その方は突然足を止めて

両手いっぱい抱えていた

釣り道具を地面におろしました。

そして、無言でその方の

近くに落ちていた、

ゴミのようなものを拾って

自分のビニール袋に入れたのです。

そして、また重そうな

釣り道具を抱え直して駐車場の

ほうへと歩いていったのです。

その一部始終を見た私は思わず

「うわあっ、かけえー」と

つぶやいてしまいました。

アレは多分エサ屋で買ってきた

ゴカイなどの入れ物。



その方は遠くから歩いて来てたのが

私には見えていたので

その方のゴミではありません。

自分のゴミではないものを
アレほどの大荷物をおろしてまでして
拾っていったのです。

アレには**衝撃を受けました。**

しかも、私はもうその頃には
自分のゴミは確実に持ち帰って
いましたが、それ以来自分の
ゴミ以外もちょっとしたものなら
持ち帰るようにしています。

私も人の事は
言えないかもしれません。

過去や現在は変えられません。

しかし**気が付いてほしい**。

未来だけは自分の力で

変えることができるのです。

あなたがもし、釣り場にゴミを
捨てる人だったとしたならば、
それは今から変えていけばいい事。
釣り場に限らずね。

そして、話はそもそも

もっと**単純**です。

あなたも邪魔なところに

車を止められたり、

注意したら逆ギレされたり無視されたり、

夜中に騒がれたり、

港や散歩コースに

ゴミを放置されたりしたら

嫌ですね？。

私は、

“自分がされたら嫌なことは人にしない”

これがマナーだと思います。

私のお話をここまで聞いて頂いている

あなたなら大丈夫ですね？

住人とのトラブルによって

釣り禁止となる、

すばらしいフィールド（釣り場）が
後をたちません。

今一度、よく考えて頂きたい。

よろしくお願い致します。

釣り人のマナー



普通のマナーについては大丈夫でしょう。

次は一般の人が知らない事もあって

トラブルの元になってしまう事がある

釣り人としてのマナー。

実は釣りの世界には

釣り人特有のマナーが存在します。

ここからは釣り人として、

シーバスアングラーとしての
マナーについて書かせてください。

これから始められるあなたに
必ず知っておいて頂かなくては
ならない大切な事です。

内容に関しては
少し特殊なものもありますが、
基本的な根っこになっているものは
普通のマナーと同じです。
それが何かは最後にお話します。

是非、お付き合いくださいね。

【釣りに限らず・・・、】

先行者優先になっているものは

釣り以外にも多いですね。

釣り場においてもそう、

先行者が優先です。

コレは人づてに聞いた話ですが

自分がポイントに向かって歩いていたら、

後ろから我先にと走って

追い抜いていった釣り人が

いたらしいです。

なんでもそこはあまり広い

フィールドでは無いらしく

先端には一人二人が限界という

釣り場だったようです。

走って追い越して行った

人もそのことを知っていたのでしょう。

でなければそんな不自然な

行動はとりませんから。

案の定、先端は取られていたそうです。

確かに早いものの勝ちですが、

あなたはコレについて

どう思いますか？

もし、自分が同じ事をされたら？

流石に文句は言わないでしょうけど

複雑な気持ちになると思います。

追い越した人は相手の行き先が

予想できたから

追い越したわけですからね。

これ、間違っではないないかも

しれないけど、**かっこ悪くて**

しかも大人げないです。

やってることは信号待ちしている

車の前に右折車線から割り込むのと

あまり変わりません。

行列の出来るラーメン屋で

足の遅い人を追い越して

走って並ぶ人と同じです。

あなたはクールにスマートに
いきましょうね。



さて、

フィールドに着いた時に
もし先行者がいたら、
その方の邪魔にならないように
釣りをしなければなりません。

ですが、これに関しては

先行者の方が**どんな釣りを**

しているのかが大きく関わってきます。

このあたりも知っておいたほうが

いいと思うんで簡単に説明します。

【シーバスアングラー】

まず、同じシーバスアングラーなら

離れていればいいのですが、

普通に喋って声が聴こえるような

距離にいる場合は**一声かけて**

了解を得てからキャストするのが

常識になっています。

どんな釣り人でもそうなんです

始める前に先行者がどんな動きをしているか、様子を見て配慮してあげると素晴らしいです。

見るポイントは狙っている魚と狙っているエリアです。

【クロダイ】

狙っている魚で注意が必要なのはクロダイを狙ってる人。

大きく分けると2種類の釣り人がいて、移動式と固定式です。

クロダイの場合は固定式の人

完全に一箇所に腰を落ち着けて
椅子やクーラーBOXなどを
そばに置いて釣りをしています。

このタイプは静かに声をかけて
大丈夫なパターンですが、
近距離でのキャストはNGです。

何を釣っているかは
聞けばわかります。

クロダイであった場合は
基本的にはやめておいたほうが
いいですが、どうしても狙いたい
場所がある場合は50メートル以上
離れているのを確認して

了解を得てからキャストしてください。

あっ、この時50メートル以上
離れているというのは釣り人との
距離もそうなんですが、

その人が狙っているエリアからも
あなたの狙いたいポイントが
同じくらい離れているのを
確認してください。

なぜなら、クロダイという魚は
警戒心が強く、感覚が鋭いから。
少しでも違和感を感じると
エサを食べません。

いっぽう**移動式**のクロダイ釣りの方は

“落とし込み”と呼ばれる釣り方で

ロッド、小物、エサ箱、タモを

全て自分の身体に装備して

歩きながら釣りをしています。

基本的に座らないし、

少しずつ横移動しながら、

足元を狙っているので、

しばらく観察していれば

すぐにそれと分かります。

このタイプの釣り人は

基本的に近づかないのがいいですね。

近距離で釣りをするのは
諦めてください。

なぜなら、相手がクロダイで
しかも足元を狙っているために
魚との距離が近すぎるから。

基本的に気配を殺して釣っているので
後ろから声を掛けられるのはもちろん、
近距離でのキャストなど
もってのほかです。

どうしてもと言うのなら、
しばらく動きを観察してください。

そうすると狙っているエリアや
進行方向が分かってきます。

進行方向とは反対向きで

100メートル以上離れたところで

キャストしてください。

【投げ釣り】

そして、次に注意するのが

投げ釣りの人。

長くて太い竿を竿立てに
置いて当たりがあるまで
じっくり待つスタイルの
方が多いですね。

全然、後ろから声を掛けても

問題ありません。

注意するのは竿先から出ている
ラインがどの方向に向いているか？

この釣りは射程範囲が
圧倒的に長く、どこに仕掛けが
投入されているかを確認してから
でないと、その釣り人のラインを
ルアーで釣ってしまいます。

釣座から半径100メートルくらいは
余裕で狙えます。

基本的には迷惑なので横で
キャストする人は居ませんが
本人が知らない間に仕掛けが
横に流されている事もあります。

ですから、竿先から出ている
ラインがどの方向を向いているか
確認してからキャストしたほうがいいです。

ラインが見えない時は
本人に確認してくださいね。

【浮きの投げ釣り】

あとは**浮きの投げ釣り**をしてる人。

このタイプも50メートル以上

離れてください。

そして、あまり大きな声で

近づかないように。

わりと近距離を狙ってる事が多いです。

よく見かけるのは固定式の

シーバスアングラーですね。

といっても、もちろん

エサ釣りでセイゴやフッコを

狙っているというタイプ。

特に注意が必要なのは

このくらいですね。

あとは普通に声を掛けても
まったく問題はないです。

どんな釣り人でもそうですが
普通に喋って声が聞き取れるくらいの
距離で釣りをする時は必ず声をかけて
了解を得てくださいね。

私達、ルアーアングラーは
エサ釣りの方たちから
結構嫌われている場合があります。

なぜなら、エサ釣りの人は
気配を殺して釣りをしている
パターンが多いから。

そんなところへ行って、
隣でプラスチックの塊を
ビュンビュン投げられたら
そりゃ怒りますよ。

魚、逃げちゃいますから。

釣り場は基本、早い者勝ちですから
先行者を尊重してください。

【人の思いを無視する行為です】
例えば、コレも人づてに聞いた話ですが、
シーバスを狙っていたら、
いきなりすぐ隣でルアーを

キャストしてきた人がいたようです。

しかも話してくれた人のラインの上にかぶせるようなキャストで・・・。

さすがにイラッときたらしく、

「すいません、一声掛けてから
やってくれませんか？」

と言ったところ、

なんとその相手は

「うるせえっ、殺すぞ、クソがっ！」

みたいな事を言っただけです。

私はその話を聞いた時、

「えええっ、マジでえ〜！？」

と、思わず言ってしまいました。

アレは人事ですが、

腹が立ちました。

あなたはどう思いますか？

・・・。

なんだか悲しくなりますね。

・・・、

「ありえねえー！！！」

おっと、失礼しました。

さて、お話の冒頭で
根っこになっているものは
普通のマナーと同じとお話しました。

前項で、普通のマナーに関しても
お話させて頂きました。

その時、私はこう説明しました。

いずれの事もそうですが、

自分がやられた時の事を

考えて下さいと。

そして、

“自分がされて嫌な事は人にはしない”

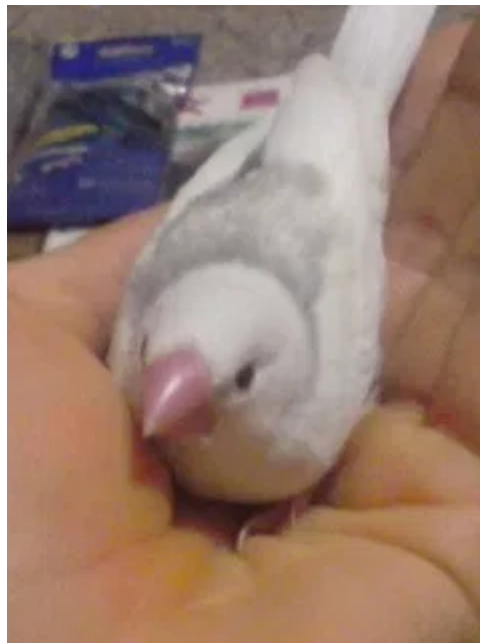
私はコレがマナーだと思うと。

では、その根っこになってるものは？

好きな人、小さな子供、かわいい動物、

かわいいおばあちゃん、大切な家族。

想像してみてください。



わかりますよね？

人間の象徴でもある

思いやりという感情です。

あなたも今までにたくさんの
思いやりをいろんな人から
受けてきたはず。

あんなひどいセリフを放った人も
受けてきたはずだし
持っているはず。

クールにいこうよ！

仲間をつくろう



突然ですが、仲間を作ろう。

シーバスフィッシングは
ある程度の知識とタックルと
一握りのやる気があれば
始める事が出来ます。

ですが、あなたが初心者ならば

まずは仲間を作るのがオススメです。

なぜなら、シーバスフィッシングには

始めると結構早い段階で

ちょっぴり**危険が伴う**からです。

ではどんな危険があるのか

解説させていただきます。

【シーバスフィッシングにおける危険】

まず、シーバスという魚は

警戒心がかなり強く、

基本的に人けの無いフィールドを

狙う事になります。

よほど整備されている
海釣り公園みたいな場所で
釣ればいいのですが、
毎回そう簡単にはいきません。

ここで発生する危険が
孤立状態にあるという事。

よくあるのはルアーフックが
自分の身体に刺さる事。

大体の場合は一人で何とかできますが、
刺さりどころが悪いと
誰か助けを呼ばなければなりません。

厄介なのは自分の死角に

フックが刺さって貫通している時。

ルアーフックというのは

通常の針よりも**“返し”**と呼ばれる

針が抜けるのを防ぐトゲみたいな

ものが大きいのです。

一度、貫通したら特定の

道具を持っていない限り

簡単には抜けません。



ちょっと**想像**してみてください。

あなたは車で

単独釣行に出かけました。

「さあ、釣るぞ」と意気込んで
ワクワクしながらの第一投目。

ここで痛恨のキャストミス。

なんと、ルアーフックが

自分のおしりの下のほうに刺さって

しかも貫通してしまった。

もちろん簡単には抜けない。

しかも刺さっている場所が

自分では見にくいので

処理できずに病院へ行くことに。

この時、問題になるのが

ルアーが刺さっている場所。

おしり下部にルアーが刺さった

状態であなたは車を運転できますか？

・・・。

はい、**物理的に不可能**です。

と、なると、

携帯電話で知り合いに

助けを求めるか、

救急車を呼ぶことになります。

もし、誰も手が空いていなくて

救急車を呼んだとします。

「釣りをしていたら、おしりに
ルアーが刺さって抜けないんだ。

助けてくれ。」と119番通報・・・。

ちょっぴり恥ずかしい目に

合う事になります。

こんな事はそうそうありませんが

絶対に無いとは言い切れません。

ですから、ある程度の危険は

予測しておくべきです。

ではこの時、

もし仲間が同行していたら

どうでしょうか？

もしかしたら、道具を使って

その場で処理出来るかもしれないし、

仲間に車を運転してもらって

病院へ連れてってもらえるでしょう。

残念ながら、刺さった場所が
おしりであった場合は、
結局病院で恥ずかしい思いをする
事になりますが・・・。

と、まあこれは極端な例。

【危険なエリアもある】

他にも、**シーバスフィッシングを
すると必然的に夜に行動する事が
多くなります。**

夜に限らず、単独釣行は何かあった時に

誰にも助けてもらえない可能性が高いです。

ルアーがおしりに刺さった程度なら

まだ笑い話ですみませんが、

テトラの上で釣りをしていて

テトラの間に落ちてしまったりしたら、

すぐ近くに仲間が居ないかぎり

95%助かりません。

あなたは、もしかしたら

テトラポットの危険さをあまり

ご存知無いかもしれない。

海面付近のテトラポットには

フジツボや牡蠣ガラなどが

びっしりと付着している。

これらの外郭は非常に鋭利で
釣り糸なんて簡単に切断する。



もし、あなたがテトラの間に
落ちてしまったとしたら、

この鋭利な刃物のような物質が
無数に付着した複雑な空間の中で
あなたの身体は上下左右に
波に揉まれるという事態になるのです。

その上、濡れたテトラは
ヌルヌルして滑るので掴めない。

フジツボや牡蠣ガラを掴めば
手は切れる。

落ちた時に冷静で居られなければ
まず、助からないのはあなたも
簡単に想像できるはず。

【そして、これは女性限定】
特に**あなたが女性なら**
必ず仲間と行動してください。

出来れば男性と行動するのがいいです。

なぜなら多くの危険を
回避できるから。

釣り場には気さくなおじさんが結構います。

釣り場では女性が珍しいのか、
一度話しかけられると
なかなか開放してくれなくて
釣りにならないという話を
よく聞きます。

こうなると釣りを楽しむ事が
出来ないばかりか、場所を
移動するという対策を取らないと

いけなくなりますので。

あなたが女性なら単独釣行は

絶対に避けてくださいね。

そして、何より**仲間との釣りは**

より一層楽しくなります！

釣り仲間をつくりましょう。

ルアーフィッシングの基本



ルアーフィッシングには 基本的な考えや手法がある。

昔から言われている**3つの基本**について
LOSのしんがシーバスフィッシングを
視野に入れて考えてみました。

あなたがシーバスフィッシングをしていく
上で**最も大きな概念**になるので、
解説させてください。

【魚の居るところにルアーを通す】

ルアーとは「誘惑、誘惑する」

という意味を持っています。

今回はルアーフィッシングをするのに

必要になってくる根本的な考え方。

一番上にある

最も大きな概念のお話です。

これらを押さえておかないと

多くのシーバスを逃す事になるので、

釣れなくて迷った時には

思い出してみてくださいね。

では、いきましょう。

ルアーはエサではありません。

「ん？、当たり前だろ？」と

あなたは思ったかもしれませんね。

そのとおりです。

そもそも生物ではないですね。

一般的に生きているベイトたちは
微弱な電気信号を発しているという
話を聞いたことがあります。

でも、ルアーにはそれが無い。

電気信号がどうか

詳しい話は私も分かりませんが、

少なくとも**生き物の気配が**

無いのは確かです。

表現しにくいんですが、
生物特有の生命感や臭いなどの
要素がルアーにはありません。

なんとなく、生き物チックな感じが
欠落しています。

ですから、基本的には
シーバスの方から餌だと認識して
寄ってくる事はありません。

シーバスがエサを探しながら
うろついていてもルアーが
静止した状態なら素通りします。

でも、これが本物のベイトで
ピタッと水中で静止していたら
確実に食べられますね。

つまり、ルアーとベイトとは
“似て非なるもの”なんです。

では、どうやって釣っているのか？

・・・、

そうですね、
シーバスを騙して釣っているんです。

ルアーが発する波動や
フラッシングなどでベイトだと
勘違いさせて釣っています。

よほどその時のフィールドの
状況にマッチした波動や水中の
音を使えば寄せる事は出来ます。

でもそれは餌だと認識して
寄ってきているわけではなく、
「なんだか騒がしい」から
「エサが居るかもしれないなあ～」
という“興味”で寄ってきているだけ。

決してサメのように
ベイトが発する電気信号を感知して

寄ってくるわけではないんです。

ですから、基本的には

**最低限シーバスの居るところに
ルアーを通す必要が出てきます。**

エサと違って

向こうからは来ませんから。

厳密にはシーバスの目の前を

通して「やべっ、逃げられる！」と

あわてさせて冷静さを欠いた状態で

シーバスを騙して釣っています。

だから、**誘惑するものとして**

ルアーと名付けられているんですね。

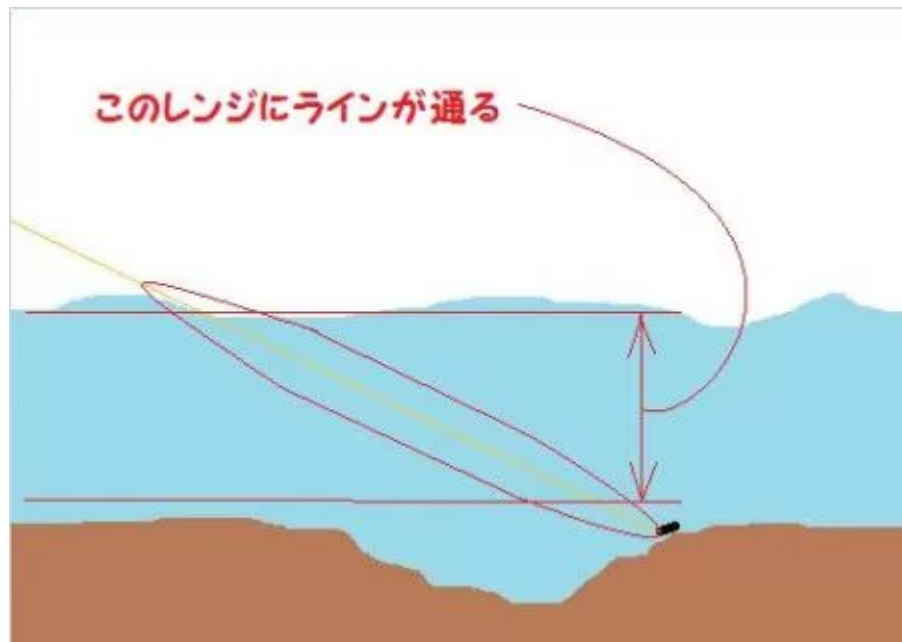
つまり、基本的にはシーバスが
居るところにルアーを通す事が
最低条件になるという事。

【上から下へ、手前から遠くへ】

これも必ずといっていいほど
よく言われることですね。

ルアーには釣り糸が付いているので

キャストしたルアーの引いてくる
レンジの上層には必ずラインが通ります。



この水中を通るラインを
発見して違和感を感じた魚は
すべて逃げていきます。

こちらは縦の話。

横向きの話でも同じ事が言えます。

理由はまったく同じ。

ルアーを遠くにキャストすれば
キャスト位置まで引いてくる事に
なります。

その引いてくるまでの間に
いいポイントがあつて、そこに
シーバスがスタンバイしていたら
ラインが上から降ってきて動きます。

すると、その**不自然に動くラインと**
そのラインが水中で水を掻く音で
釣りをしているのがバレてしまうんです。

当然、逃げていきますね。

ですから、**自分に近い**

手前のポイントから狙っていきます。

極端言うと、

まず足元を探ってください。

そこから順番に遠くのポイントを
探っていきます。

ただし、手前のポイントからと言っても、

ポイント直撃はダメですからね。

最初にあそこのポイントを攻める。

と決めて、**どうやったらルアーで**

その場所を上手く通過させられるかを

考えてみましょう。

コレでもラインが先に通りますが、

シーバスが「ん？」とか思ってるうちに

ルアーを通してしまえばいいんです。

**攻める時は、上から下へ、
手前から遠くへ。**

コレも鉄則中の鉄則です。

【レンジキープ】

ルアーフィッシングの基本として

レンジをキープするという事も

よく言われます。

では、なぜ

コレが言われるのでしょうか？

魚にもよるし、その時の状況にもよりますが、

魚というのは基本的に

そんなに瞬間的にレンジを変える

事は出来ません。

正確に言うと、レンジを変える事は

できますが、相当なダメージを

受けます。

実は魚は泳いでレンジを調整して

いるわけではありません。

体内に浮袋という物を持っていて

この中の空気の量を調整して

レンジを保っています。

ですから、急激にレンジを変えると

浮袋の空気圧がそれに対応できず
膨張したり収縮したりして内臓内の
圧力を急激に変化させます。

コレは相当苦しいですね。

私達人間で考えてもらえば
わかると思います。

たとえば、瞬間的にあなたの
胃の大きさが二倍くらいになったら？

内臓が圧迫されて危険な
状態に陥りますよね？

間違いなく命に関わるのは
容易に想像できます。

ですから、魚はレンジを変えようと
思ったら体力を使って少しずつ
身体をならしていかなくてはなりません。

これは人間がスキューバダイビング
する時も同じですよ。

大きな魚はこの能力が高く
ある程度のレンジならば
瞬間的に移動はできますが。

そのため、魚はレンジを変えなければ
ならない確固たる理由が無いと
レンジを変えません。

つまり、こういう事です。

シーバスに追われたりしてヤバい時

とかでなければ、普通に泳いでいる分には

上へ行ったり下へ行ったりしてレンジを

変えながら横移動するベイトはいないんです。

まあ、これは極端な話ですけどね。

でも、基本的にはレンジを

変えるのを嫌がるという事。

だから、自然界のベイトは

ほぼ水平移動をしています。

ある程度のゾーンレンジの中で。

ところが、ルアーを使うと不自然に

上へ行ったり下へ行ったりという

動きをしてしまうんです。

もちろん、ゆっくりと下へ

レンジを下げながら横移動する

ベイトも居ます。

逆にゆっくりと上へ移動していく

ベイトも居るでしょう。

でも、行ったり来たりを

無駄に繰り返すベイトは

シーバスに違和感しか与えません。

ボトムやボイルなどの

特殊な条件下では別ですよ。

ですから、違和感の少ない

なるべく水平な泳ぎを意識する

必要はあります。

簡単に言うと変なレンジの変え方をすると、

たとえ10センチ程度の変化でも

ルアーだと見切られるという事。

ですが、シーバスフィッシングにおいては、

いわゆる**“ピンの釣り”**で

ルアーの後をしばらく追いかけて来て

喰いつく事は少ないです。

ピンとはピンスポットの事。

これはシーバスフィッシングの

キモでもあるんですが、**追いかける**

タイプの魚を狙う時はその魚が居る

エリアを狙って釣ります。

ですが、シーバスは待ち伏せタイプなので

シーバスがスタンバイしている

“点”を狙う釣りになります。

そのため、出会い頭的な捕食が多く、

ルアーの動きの一部始終を

見ていることは少ないです。

もちろん、見える範囲にルアーが

ある場合は見えています、

シーバスの視界範囲は

そんなに広くはありません。

ですから、ミノーなどの

レンジキープ能力が付いているルアーでは

あまり気にしなくていいです。

気にしなくてはならないのは

重いシンペンや、バイブレーションですね。

シーバスフィッシングを極めた

レベルに達してきたら、ミノーなどのレンジも気にしてみてくださいね。

たとえば、フローティングミノーの
スローリトリブは上下に動きながらの
リトリブになりやすいですね。

そして**もう一つ注意点が。**

一定のスピードでリールを巻くというのは
あくまでもレンジをキープするための

表現のひとつで、**実際には**

**リールの巻き抵抗やラインの入水角度を
一定に保つという内容が正しい**です。

今はなんとなくしか分からないと
思いますが、上達してくると
この意味が明確に分かるようになります。

極めて重要なことなので
頭の片隅に置いておいてくださいね。

【まとめますと、】

シーバスを視野に入れた
ルアーフィッシングの基本とは、
大前提として、魚の居るところに
ルアーを通すという考え方。

そして、フィールドを攻めるときは
基本的に上のレンジから下のレンジへ、

手前のポイントから徐々に遠くの
ポイントへと探っていく事。

さらに、レンジキープを
意識してみるという事です。

以上がZero, start, sea bass fishing book
マインド編の内容になります。

あなたがこれからシーバスフィッシングを
していくのに絶対に外せない
知っておくべき内容になっているので
何度も何度も読み返してみてくださいね。

しばらく経ってから読み返すと

さらなる発見があって勉強になります。

わりとヘビーな内容もお話させて

頂きましたが、シーバスフィッシングの

目的と言えは**まずはあなたが楽しむ事。**

しっかりと楽しんでいきましょう。

それでは、

グッドラック！

申し遅れました

そうそう、

そろそろいいかげん

「おまえ、誰やねん!？」

って思っているかもしれないので

自己紹介を。

私はライブ・オブ・シーバス!のしん。



【プロフィール】

ニックN	しん
出身	名古屋
生息地	三重県
誕生日	10月3日
所属	辰年
階級	1児のパパ
流派	ネコ派
仕事	ライブ・オブ・シーバス運営
趣味	釣り全般
性格	真面目8：不真面目2

優しく温厚で争いを好まない

気は長く、負けず嫌い

妻 可愛くて取っ付き易い性格の

誰からも好かれる料理上手

好きな言葉 未来だけが唯一変えられる！

自業自得！

夢追い人であれ！

【私のロード】

生まれて間もなく親の都合で

岐阜県に移住する。

小学校6年から近所の川で釣りを始め、

ウグイやハヤなどを釣るところから始める。

しばらくすると、浮きを使った

流し釣りに目覚め、

フナや鯉を釣るようになる。

中学、高校の頃には

足を滑らせて川に落ちたり、

川の中州に渡ろうとして、釣り糸を

木の枝に引っ掛けてそれにぶら下がり、

ターザンのノリでチャレンジ。

もちろん川に転落。w

釣りの帰り道で自転車に乗りながら

居眠り運転をしていたら目の前に電柱が！

それを華麗にかわして夏の田んぼに

自転車ごとダイビング。

生い茂る稲に一夜にして

ミステリーサークルを作るなど、

数々の伝説を打ち立てる。www

社会人になるとショボい経済力と

行動範囲を手に入れ、

ヘラブナ釣りに目覚める。



次第に海釣りにも興味を持ち出し、
休みを使ってちょくちょく
遠出をするようになり、
クロダイ釣りの楽しさに魅せられる。



それに伴い、ルアーフィッシングにも
興味を持ち、バスフィッシングや
海のルアー釣りに目覚める。

三重県出身の今の奥さんと出会って
めでたく結婚し、三重県に喜んで移住する。

もちろん理由は海があるから。w



海が近いのをいいことに
ついにシーバスフィッシングに
目覚め、今に至る。

【私のビジョン】

ひと言で言うと、

“釣りから未来を変える！”

というコンセプトです。

インドア派の多いハイテクな時代に、

自然との共存や触れ合いの

大切さを広め、その楽しさを

知ってもらうため、

そうして、もっともっと多くの

人にルアーフィッシングの楽しさを

知ってもらい、その過程で

- ・ 命や自然の大切さ、
- ・ 人や弱い生き物への思いやり、
- ・ マナーや道徳が持つ意味、
- ・ 環境配慮の在り方、
- ・ 生態系を守る事のメリット、

などなど、釣りから得られる

数多くの恩恵と学びを

得ていただくために、

私はそれをシーバスフィッシング
というものを通して
いろんな人へ伝える事で最終的に
日本の未来を変えていきたい！

そのために自身のブログ、

ライブ・オブ・シーバス！を

立ち上げました。



私 はね・・・、

思うんです。

私達が釣りをするフィールド。

自然豊かで美しい景色や生命。

こういった、**かけがえのない**

大切なものを守っていきたい。

あなたは釣り人として、

今の釣り場などにとどまらず

そういった自然のフィールドを

見てみてどう思うかな？

例えば、

堤防の上などに、何の罪もない

小さな魚たちが捨てられていて
干からびているのを
見たことはありませんか？

あれはおそらく一部は
釣り人の仕業です。

餌で釣りをしていて
大きな魚を狙っているんだけど
当然世間知らずな、まだ賢くない
小さな魚たちの方が警戒心が
弱いので先に餌に飛び付きます。

俗に釣り人の間では“餌取り”
などと呼ばれていますが、
邪魔だからそれに腹を立てて

その小さな命をムダに奪う。

こんな事がいまだに

フィールドでは行われている。

やった人には、これが

いかに自分勝手に強欲で

しかも自分の釣りに意味のない行為かを

冷静になって考えて欲しいです。

その小さな命こそが、

その人が狙っている大きな

魚を育てているんです。

そして、釣り場はもちろん、それ以外の

山や川などにあるはずもない

ゴミなどが大量に捨てられている

状況を見たことがないかな？

例えば、道路の中央分離帯や

高架橋の下など、

「ここはゴミ捨て場か？」と

ツッコミを入れたくなるほど

酷い景観を目にしたことは

ないでしょうか？

世界ではね、

唾を吐いただけで罰金を

払わされたりする地域も

あったりするんだ。

そして、そこに住んでいる人たちは
単に縛られているだけではなく、
個人の意識もものすごく高いんだ。

ひとりひとりがそれぞれ
街を綺麗に美しくしたいと
思っているんだ。
そして本当に美しい。

釣りに関してもそうだよ。

ある国では漁業者と釣り人の両方に
それぞれ綿密で理にかなった漁獲量が
法律で定められていると
誰かが言っていたよ。

つまり、釣り人が1日にキープ出来る
魚の量が決まっていて違反者は
法律で罰せられるし、
厳しい検量も当たり前に行われている。

そうやって厳しい
レギュレーションが存在していて
これがその国のフィールドを
守っているんだ。

そしてそこに関わる釣り人の
ひとりひとりの高い意識もね。

その証拠にその国では
釣りに行ったら当然のように
大きくてコンディションのいい

魚が釣れているらしいんだ。

では我が国はどうかな？

昔から釣りをしている人は
感じている方も居ると思う。

「最近、釣れない。」

「魚が居なくなった。」

「小さな魚しか居ない。」

などなど。

私達の国は島国です。

まわりを豊かな海に囲まれ、

和食、寿司などの世界に誇れる

食文化と高い技術がある。

そんな素晴らしい魅力的な
国のフィールドに対する
法整備やレギュレーション、
ひとりひとりの意識が
世界にこんなにも遅れを
取っているという事実。

大和魂と言われる私達の
住む地域がこんなに
恥ずかしいレベルでいいのか？

私たち人間はね・・・、
生態系の頂点に立ってしまった

存在なんだ。

生態系や豊かな自然、
これから先に生まれてくる
未来の子供達を守る事も
出来ればその反対もまた然り。

だから、**目を背けずに**
向き合っていかなければ
ならないと思うんだ。

もっと自然に目を向けて
これからの世界を作っていく
子どもたちのために
自然を守り、自然と共存していく

生き方を広めてゆくために、

私の理念でありスローガンでもある、

「地球（ほし）と人との繋がりを求めて。

大自然の中に身を置き感じる。

時には静かに、時には激しく生命と対話する。

己の慣性を元に知的に歩む。

その先に待つドラマへと！。

あなたも

シーバスフィッシングを始めてみませんか？。」

をキャッチフレーズにいろんな人に

シーバスフィッシングの楽しさや

始め方を伝えて行きたい。

そしてその楽しさや目線は

親から子へと受け継がれて

さらなる未来のかけがえのないものの多くを、

またその先の未来へと繋いでいくと思う。

そうして子供達がまた

尊い命や豊かな自然の大切さを学んで、

それが繋がっていったら

素敵な事だなと思っているんだ。

だからこそ私は**ひとりひとりの**

意識を、この国の法整備や

レギュレーションを、未来を、

釣りの世界を変えていきたい！

だけどね・・・、

これって私ひとりの力じゃ

とても難しいんだ。

でも、**こういう考えを**

持った人たちが増えていけば

必ず変えられると信じている。

だから、あなたにも

力を貸して欲しい。

旗を立ててほしいんだ。

keyword = つり

もちろん、人に注意してはダメ。

それはただトラブルになるだけ。

そうではなく、あなたが
ここまでとはいかなくても
私の思いに賛同して小さな
行動でも起こしてくれる、
ただそれだけでいいんだ。

人に何かをさせる必要はないし、
どうせしない。

だけど**そういう目線を**
持った人がひとり、またひとりと
増えていけば、どんどん

増えていくと思っている。

そうしてそれが、いつの日か
この国のフィールドを、
未来を、世界を変えると
信じているし、私も変えるために
これから活動させて頂きたい。

そしてその過程で、いずれは自身が
シーバスフィッシングを極める事を
人生の目的として、歩んで行きたい。

私の野望は日本全国を
シーバスフィッシングで
釣り歩いてみることです。

不束者ですが

よろしくお願い致します。